

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和5年第1週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和5年第1週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和5年第1週（令和5年1月2日から令和5年1月8日まで）

第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）インフルエンザ 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週（6.42人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.95人と前週（4.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.25人と前週（0.25人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“知っていますか？～麻しん（はしか）～”について取り上げました。

麻しんは、麻しんウイルスにより引き起こされる急性感染症で、高熱や発しん、気道症状等を伴います。感染力が非常に強く、免疫を持っていない方が感染するとほぼ100%発症し、肺炎や脳炎等を合併することもあります。

我が国では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う渡航制限等により、麻しんの報告数が大幅に減少しました。しかし、2022年以降、世界的に報告数が増加していることから、今後は国内に持ち込まれる可能性もあります。

麻しんは空気感染をするため、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期予防接種の対象の方は、是非早めに接種をしておきましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

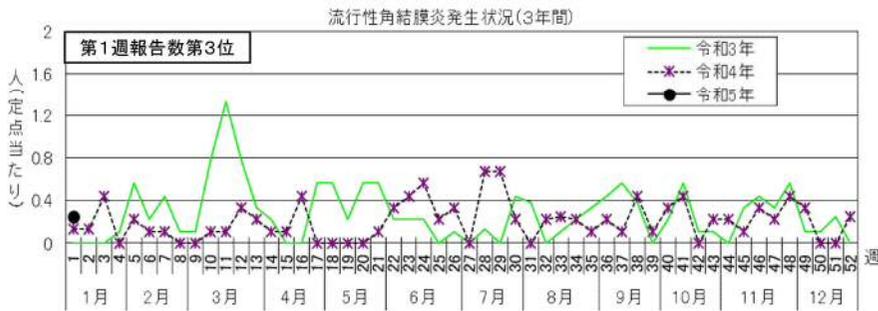
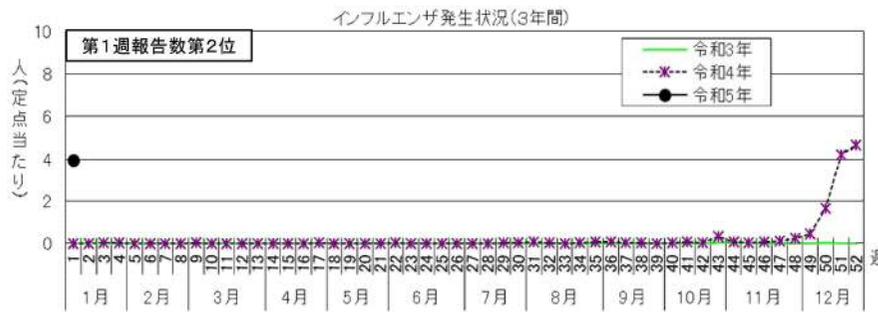
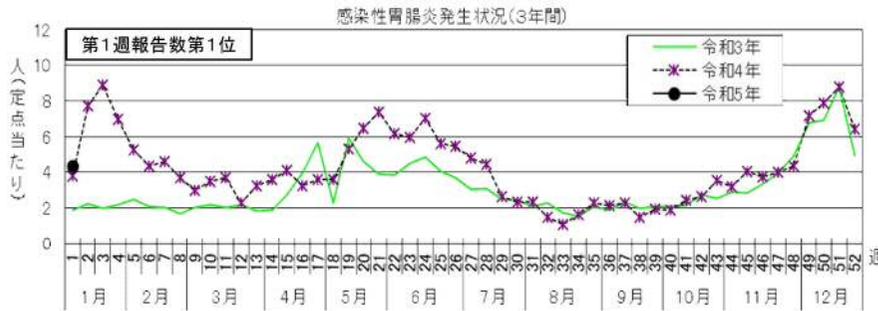
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和5年1月2日（月）～令和5年1月8日（日）〔令和5年第1週〕の感染症発生状況

第1週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) インフルエンザ 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.32人と前週（6.42人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 インフルエンザの定点当たり患者報告数は3.95人と前週（4.65人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.25人と前週（0.25人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



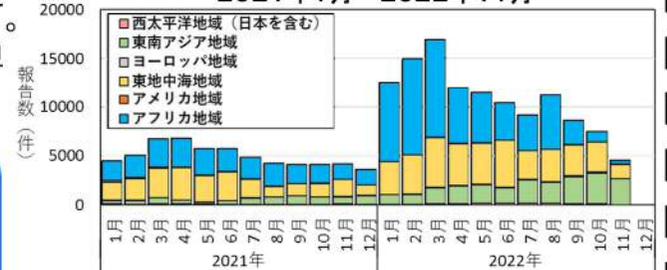
～ 知っていますか？～麻しん（はしか）～

麻しんは、麻しんウイルスにより引き起こされる急性感染症で、高熱や発しん、気道症状等を伴います。感染力が非常に強く、免疫を持っていない方が感染するとほぼ100%発症し、肺炎や脳炎等を合併することもあります。

我が国では、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う渡航制限等により、麻しんの報告数が大幅に減少しました。しかし、2022年以降、世界的に報告数が増加していることから、今後は国内に持ち込まれる可能性もあります。

麻しんは空気感染をするため、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期予防接種の対象の方は、是非早めに接種をしておきましょう。

世界における地域別麻しんの報告数
 -2021年1月～2022年11月-



世界保健機関（WHO）ホームページデータから作成

麻しんとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、空気感染

【潜伏期間】

7～18日間（最長21日間程度）

【主な症状】

発熱、咳、鼻汁、発しん、結膜充血など

【予防対策】

麻しん含有ワクチン（MRワクチン）の接種

※麻しんの患者に接触した場合、72時間以内にワクチン接種をすることで、発症を予防できる可能性があります。

